

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072700380
法人名	社会福祉法人 周防学園
事業所名	グループホーム ほうらい
所在地 (電話番号)	福岡県豊前市大字今市135 1 (電話) 0979-83-1165

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年8月18日	評価確定日	平成20年9月24日

【情報提供票より】(平成20年7月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	(水光熱費)6,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300円	

(4) 利用者の概要(7月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八屋第一診療所 / 大川病院 / 川木戸歯科医院 / 豊前眼科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームほうらいは、住宅街に位置する鉄骨造りの平屋である。室内は、天窓・中庭より自然な光が差し込み明るい。木目の高い天井がフロアの広さを印象づけ、全体的に開放感がある。広々としたフロアには、オープンキッチンが入居者が使い易いように考慮され、入居者が無理なく日々の暮らしの中で役割を果たすことができるように工夫がある。広々とした空間には、入居者が、のびのびとホームでの暮らしを楽しむことができるようにとの配慮がある。外出の機会も出来る限り多く持つようにしており、食材の買い物・買い物ツアー・散歩・ドライブなど気分転換を図ることができるよう心掛けている。職員は、地域密着型サービスの主旨を理解し、その実現に努めている。例えば、運営推進会議では、地域からの参加者が多く、活発な意見交換がなされている。同時に、家族や地域の声に真摯に耳を傾け、情報開示も積極的に誠実な姿勢がうかがえる。また、早い時期より、同業者との交流・情報交換についても、意欲的で、運営推進会議への参加の呼びかけを市内のグループホームや小規模多機能型居宅介護施設の職員へ依頼しており、実際に参加して頂いている。さらに、近隣の高校の福祉現場体験授業を引き受けるとともに、他施設への協力を働き掛ける等、地域への情報発信及び同業者間の連携に取り組んでいる。入居者のQOLの向上に繋がるための勉強会も行っている。今後、地域との一層の結びつきにより、地域の福祉拠点としての役割が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題として運営推進会議の具体的な議事録を残すという項目に関しては早急に改善している。家族の意見を引き出すためのアンケート内容についても改善している。職員の力量に応じての研修については、参加はあるものの、年間計画の作成に期待したい。入居者本位の介護計画についても改善に向けて取り組んでいる。今後も職員全員で話し合い、改善に向けて意見を出し合い実行していく状況にある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に際し、用紙を各職員に配布し、職員全員で意見を出し合い管理者と主任でまとめを行っている。現在の質を落とさないよう改善できるところを指摘してもらった事で意欲的に取り組んでいる。また、改善点については運営推進会議に報告をすると共に意見を頂き、再度、職員全員で話し合い改善に向けた取り組みを行っている。</p>
	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回の割合で開催し、その内3回は家族会とも合流し開催している。議題に関しては、地域密着型サービスの内容説明や新たに始める通所サービスに関しての取り組みなどの報告を行い、家族や外部の方からの意見交換により、意見をもらいながら積極的に運営に活かしていく取り組みを行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には来訪時に随時、状態報告を行っており、遠方の家族には請求書を送付する際、報告書を作成し同封している。また状態変化があった際には、その都度、電話での報告を行っている。アンケートの実施を行い、苦情等を言いやすい雰囲気づくりに努力している。その場で解決できない場合は、随時、運営促進会議の課題として意見を求めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民として自治会に加入し、地域の行事にも積極的に参加・活動している。また、道路愛護のための掃除や草取りにも運営者自らが積極的に参加を行い、地域住民との関係づくりに努めている。災害時の避難場所としてもホームの提供を行い、在宅での入浴が困難な地域住民に対して風呂場の提供を行う等の取り組みを行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	開設当初より、職員間の話し合いにより、事業所独自の理念・ケア方針を作成している。内容についても、「地域密着型サービス」の主旨を踏まえたものとなっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	申し送り時に唱和するとともに、会議やミーティングの際に理念についての話し合いを行い、内容の再確認と意識づけを図り、理念にそった支援を心掛けている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	開設当初より自治会に加入しており、回覧板により地域の情報を把握している。地域の祇園や花火大会・保育園の運動会等の行事に積極的に参加している。職員は道路愛護の活動等にも参加している。近隣の高校の福祉現場の体験授業を引き受けるとともに、他施設への協力を働きかける等、地域への情報発信及び同業者間の連携に取り組んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	職員全員に自己評価票を配布し、外部評価を行う意義を説明し、話し合いを行うことで周知を図った。評価結果については、運営推進会議で報告するとともに、指摘事項については、職員間で話し合い具体的な改善を行っている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催されており、時に家族会と併せての開催もみられる。参加者は、家族・民生委員・自治会長・近隣住民からなり、入居者の生活や運営状況・外部評価結果等を報告するとともに、要望・意見を取り入れる機会としている。議事録より、活発な意見交換の様子や積極的に情報開示を行う事業所の誠実な姿勢が確認出来た。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	担当の高齢福祉課へは何度も出向き、顔馴染みになっている。必要に応じて、現場の実態を伝えるとともに相談を行っている。また、研修等の情報を得る等、必要に応じて連絡をとっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、制度の利用はないが、職員全員に市町村のパンフレットを配布し勉強会を行う等、制度の理解と周知に努めている。また、家族に対しては、入居時に制度の説明を行ったり、必要時にはいつでも相談して頂くように呼びかけを行っている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の来訪時には、随時、生活状況の報告を行い、出納帳を提示しサインを頂いている。メッセージも添えて写真や会議録・ホームだよりと共に郵送にて報告し、具体的に情報も伝えている。職員の異動については、ホーム便りにて報告後、来訪時には新職員の紹介も行っている。遠方で来訪が難しい方については、便りの送付の他に、必要に応じて電話で報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	意見箱を設置している。アンケートを年3回実施し、運営推進会議で検討している。家族会(食事を一緒に行い、運営推進会議に参加する方式)を開催している。議事録より、活発な意見交換及び積極的な情報開示の様子が確認出来た。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	異動は最小限に抑え、異動が止むを得ない場合や新しい職員の入職時には紹介を行い、慣れて頂くように他の職員も配慮している。異動に際して、その場で培った経験を同系列の事業所で反映できるように異動先の配慮を行っている。家族へは、できるだけ早めに報告を行っており、また、入居者に対しては全職員が馴染みの関係を築いていることから1名が異動になる事での影響はこれまでは見られない。人材が定着できる職場づくりを目指して取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の募集・採用にあたって、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。入社後は本人の得意分野を活かし、やりがいをもってもらう事で、職員も得意分野での力量を発揮し、生き生きと仕事に打ち込めるように配慮している。職員のヒアリングから、外部研修に参加しやすく、会議等で意見を出しやすい雰囲気があることが確認出来た。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	市主催の「人権」をテーマとした講演会に参加し、その際の資料をもとに勉強会を行っている。身体拘束に関するマニュアルを作成し、勉強会を実施している。外部の研修には、積極的に参加をしている。また市の人権課に資料をもらい職員へも配布を行っている。毎月、職員間で接遇目標を立て、入居者の人権尊重に取り組んでいる。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修への参加を行っている。日常での指導役としては、管理者や主任を中心にお互いに育ち合えるようにOJTを繰り返し入居者への対応を行っており、気づきの面はその都度職員に伝えている。年2回、事項評価とそれに伴うフィードバックを行っている。事務所内に「今月の目標(接遇目標)」を掲示し職員全員で目標を共有し取り組んでいる。更に年間の研修計画を期待したい。		研修の機会は増えているが、年間の研修計画の作成をお願いしたい。職員各自に応じた計画的な学びの機会の確保を期待したい。また、研修内容を報告する機会と報告書を全職員が閲覧できるような取り組みもお願いしたい。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームや小規模多機能型居宅介護施設の職員と意見交換会を行い、積極的な提案や情報交換を行っている。同業者との交流の必要性に関しては、早い時期より運営推進会議への参加の呼びかけを近隣の同業者へ依頼しており、実際に参加して頂いている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と必ず面談を行い、顔馴染みになっておくと同時に、可能な限り本人にもホームに遊びに来ていただくよう家族と話し合いながら馴染みの関係を築いていけるように取り組んでいる。入居後、帰宅願望がみられた時は、家族と一緒に泊まって頂いたり、安心して生活できるように家族の協力を得ながら、ホームでの暮らしが継続できるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	献立や野菜の選び方・切り方・味付けから畑の種付けの時期や収穫など昔の知恵を学びながら共同作業を行っている。日常生活の中で、同じ作業を共にしながら、人生の先輩として学び、支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>事前の面接で入居者や家族への聞き取りを行い、意向の確認を行っている。また、毎朝、それぞれに希望を尋ね、無理のないように調理・洗濯・買い物等を支援している。日常すべての場面を入居者とのコミュニケーションの場として捉え、一人ひとりの思いに関心を寄せ、職員に周知できるように努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初回アセスメントを始め、日頃より本人との会話の中から、さりげなく話を聞き、プランに反映したり家族また関係者の意見を聞き、共同で介護計画を作成している。</p>		<p>入居者がより良く暮らすための課題やケアの在り方について、アセスメントと介護計画の内容がつながりの部分が少なく検討をお願いしたい。入居者の視点に立って、地域でその人らしく暮らし続けるための意見交換やモニタリングを行っているので、介護計画の作成において意見やモニタリングの結果を活かす取り組みに期待したい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、介護計画の見直しを職員全員で話し合いを持ち検討を行っている。また、体調不良や状態の変化が見られたときは、その都度、管理者やケアマネ・担当職員で話し合い、本人や家族の意見も確認しながら計画の見直しを行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>豊前市内に同法人が運営する介護老人保健施設があり、連携によりOTやPT・管理栄養士より指導を受けている。また、ホーム併設のデイサービスセンターや認知症対応型通所介護(介護予防)のサービス実施により、ニーズに合ったサービスの提供が可能となっている。ホームでは、家族の希望に応じて宿泊も可能である。地域密着型サービスの役割として、台風時に避難場所とし地域に開放し、風呂の提供も行っている。</p>		
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>最初の入居の段階で主治医の希望を確認し、本人及び家族の希望を尊重し、かかりつけ医の受診を支援している。受診については、2週間に1回、職員が同行している。複数の医療機関と連携が取れ、緊急時にも協力が得られる体制があり、緊急時にはいつでも相談できる状況にある。また、複数の医療機関との連携も図っている。看護師が定期的にホームを訪問し体調管理を行い状態変化の早期発見に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	契約の際に、本人・家族には意思確認を行い方針を決めている。重度化した場合についても、指針を定めており、それをもとに、早い段階から、重度化の傾向のある入居者に対しては、かかりつけ医により家族に説明を行い、ホーム側と話し合いを繰り返し対応を検討している。ホームにおいて看取りの実績もあり、職員全員にアンケート調査も行われ、大分県痴呆研修会で発表も行われている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	日常会話や記録の際、言葉使いに留意し、一人ひとりの尊厳を守る対応を行っている。職員に対しては、月ごとに目標を設定し気づいた時にその都度注意を払い改善している。個人情報の資料は鍵のかかる場所で保管を行っている。どんな小さな情報も大切に扱う習慣を身につけ、それぞれの職員が理解している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	朝、希望を聞いたり、その時々を確認を行い、入居者個人の望む過ごし方に合わせ、その日の暮らしの支援を行っている。また、食事や入浴も本人のペースに合わせ柔軟な対応を行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	献立は、入居者の嗜好やその日の希望を反映させたり、季節の野菜を多く取り入れる等、柔軟な対応と季節感の演出を心掛けている。オープンシステムの台所は、食事の準備の段階から、音や匂いを感じさせ、食への意欲を喚起したり、入居者が自然と準備に参加する等、大きな効果をもたらしている。食事は、職員も一緒に食卓を囲み、和やかな雰囲気であった。食事のペースも時間にとらわれず、一人ひとりのスタイルが尊重されており、茶碗・湯呑みについても、入居者自身の物を使用しており、食事を楽しむように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	2日に1回、午後(14時～16時30分)、実施している。希望に応じて、毎日の入浴や夜間入浴にも対応している。体調の悪い入居者については、医師との相談も含め、入浴の回数制限を行う事もあるが、必ず家族に相談・了承を得て、週2回の清拭など、清潔を保てるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりの好みや状態に応じて、料理が好きな人・掃除が好きな人・生け花をする人と入居者が、その仕事を行う事で自分の役割を感じており、それぞれの役割を通じ、入居者同士の助け合いもある。天気の良い日は、買い物やドライブに出かけ、気晴らしを行っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望やその日の天候・状況に配慮しながら、日常的に買物や散歩・ドライブ等の外出支援を行っている。また、馴染みの美容院への送迎も可能な限り行っている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、施錠することの弊害を理解し、鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。安全面の配慮として、手押し式の自動ドアとチャイムの設置を行っている。ホーム前の道路が交通量も多く危険なため、職員全員で話し合い、入居者が玄関前に立った時は、一緒に外出する等、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回(春・秋)、消防署の協力のもと、マニュアルにより、避難訓練・通報訓練を実施している。地域との関係づくりも常に意識し、協力を求めるとともに、台風時には、避難訓練場所としてホームを提供する等、地域での支援活動に管理者自らが積極的に取り組んでいる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養バランスの確保については、同法人内の管理栄養士がカロリー計算を行う等、配慮している。摂取量についても、食事・水分共に、毎日記録し確認を行う等、十分な量の確保に努めている。また、入居者の状態を把握し、一人ひとりの状態に応じた形態での提供に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビングが吹き抜けとなっており、採光もよく明るい。高い天井がフロアの広さを印象づけ、全体的に開放感がある。中庭の花や季節の飾り・各所に活けられた花等が、暮らしに潤いとアクセントを与えている。また、オープンキッチンは、入居者が利用しやすいように配置・高さ等、考慮されており、入居者が自然に食事の準備など役割が果たせるように工夫されている。家庭的な雰囲気ですぐ居心地の良い空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	障子窓のある居室には、調度品・仏壇・そろばん・キーボード等、入居者の馴染みの物が持ち込まれ、入居者の意向が尊重されている。また、家具の配置や装飾等についても、一人ひとりのこれまでの環境や暮らしぶりへの配慮が感じられ、居心地の良い空間づくりに努めている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			